

田園調布学園大学大学院

人間学研究科子ども人間学専攻

2025 年度入学試験

一般入試Ⅳ期

【筆記問題 90 分】

(注 意)

1. 開始の合図があるまで表紙をめくらないで下さい。
2. 試験時間は90分です。
3. 「解答用紙」は横書きで使用してください。
4. 「解答用紙」の左上に受験番号・氏名を記入してください。
5. 「解答用紙」の右上に通し番号を記入してください。
6. 「白紙」は下書き用に使用してください。
7. 「問題用紙」、「解答用紙」、「下書き用紙」など全て回収します。

「教育学」、「保育学」、「児童福祉学」の領域より出題する。以下の問題から2問を選択し、それぞれ解答しなさい。

① 教育学

ジャン＝ジャック・ルソーの教育思想を教育思想史に位置づけ、その教育思想の意義と限界について論じなさい。

② 保育学

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」には、教育・保育は「環境を通して」行うことが示されている。また5領域のひとつとして「環境」が示されている。「環境を通して行う」の「環境」と、領域「環境」の「環境」、この2つの「環境」の意味について説明しなさい。

③ 児童福祉学

「子ども・子育て支援制度」の基本理念、概要、その特徴について論じなさい。

2025 年度 大学院入試 一般入試IV期 (子ども人間学専攻)

出題の意図

子ども人間学の研究を行うために必要な基礎的知識、思考力、文章表現力を評価する。

模範解答

「教育学」、「保育学」、「児童福祉学」の領域より出題する。以下の問題から2問を選択し、それぞれ解答しなさい。

① 教育学

ジャン＝ジャック・ルソーの教育思想を教育思想史に位置づけ、その教育思想の意義と限界について論じなさい。

ルソーは、18世紀にフランスで活躍した啓蒙思想家である。彼は私教育論、公教育論、女子教育論など、さまざまな教育論を展開しているが、よく取り上げられるのは、小説『エミール』に描かれているエミールという名の男の子に対して乳幼児期から家庭教師が行った教育である。そこで描かれた教育は、それまでの教育の通念を大きく変えるものであり、近代教育思想のひとつのエポックとみなされている。

ルソーは、人間は生まれながらにして「善い」が、社会が人間を悪くするという。そこから善である子どもが社会によって悪へと変質させられることを防ぐ教育を考える。子どもに備わっている善さを保持するために社会から隔離し、子どもに直接的に知識や徳などを教えるのではなく、間接的に環境を整えることで子どもが自ら学ぶようになる教育を提言する。この教育方法は積極的に子どもに教えるわけではないことから消極教育といわれ、子どもの自由や自発性を重んじた画期的な方法原理であった。

また、ルソーは人間が行う教育は、「自然の教育」に従うべきであることを説き、それまで行われてきた人為的な早期教育などを批判する。「自然の教育」とは、人間には発達段階があり、それに従った教育が行われなければならないということであり、ルソーは『エミール』で子どもの発達段階とそれに対応した教育方法を具体的に描いている。彼は、子どもは大人とは異なる存在であり、それまでの子どもは小さな大人であるとする子ども観を大きく転換させた。そこからルソーは「子どもの発見者」といわれている。

このようにルソーは、従来の子ども観・教育観の転換を図り、ペスタロッチなどのその後の教育思想家に大きな影響を与えた。

② 保育学

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」には、教育・保育は「環境を通して」行うことが示されている。また5領域のひとつとして「環

境」が示されている。「環境を通して行う」の「環境」と、領域「環境」の「環境」、この2つの「環境」の意味について説明しなさい。

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」では、幼児期の子どもにふさわしい保育のあり方として、「環境を通して行う保育」が示されている。子どもが意欲をもって自ら積極的に周囲の環境にかかわって活動を展開することの重要性について触れられているが、この「環境を通して行う」保育のなかでの「環境」については、保育者が子どもの発達を助長するために構成し続けていく環境であり、ここでの「環境」は、子どもが園での日常生活の中で身近に関わるひと・もの（空間、自然を含む）・ことのすべてを指す。つまり、子どもたちの周囲にある多様な環境そのものについてである。

5領域のひとつとしての「環境」は、1989年の改訂で、身近な環境に関わる力を育て、生活に取り入れようとする力を育む観点から設置された。ここでの「環境」とは、子どもの発達を「環境」との関わりから捉えようとする視点である。領域「環境」では、ほかの領域同様にねらいや内容が設定されているが、ここでは、子どもたちの発達に寄与する環境とのかかわりや行為の内容についてが示され、1999年の改訂以降、標識や文字などへの関心、我が国や地域社会における様々な文化や伝統への親しみをもつこと、幼児の考える過程を大事にすることなども明示されている。

③ 児童福祉学

「子ども・子育て支援制度」の基本理念、概要、その特徴について論じなさい。

日本では、平成24年8月の「子ども・子育て支援法」、「認定こども園法の一部改正」、「子ども・子育て支援法及び認定こども園法の一部改正法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」の「子ども・子育て関連3法」によって、幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進する子ども・子育て支援（新）制度が実施されている。

消費税率を引き上げて、国・地方の恒久財源を確保することで、社会全体で費用を負担し、「量」と「質」の両面から子どもと・子育てを社会全体で支えることを基本理念とする。

主な内容は、1. 認定こども園、幼稚園、保育所を通じた共通の給付、2. 幼保連携型認定こども園の改善、3. 地域の実情に応じた子ども・子育て支援事業を推進である。基礎自治体として市町村が地域のニーズに基づいて計画を策定、給付・事業を実施する。

有識者、地方公共団体、事業主代表・労働者代表、子育て当事者、子ども・子育て支援に関する事業に従事する者等が、子育て支援の政策プロセスなどに参画・関与することができる仕組みとして、国には「子ども・子育て会議」が設置された。市町村等にも地方版子ども・子育て会議を設置することが努力義務となっている。

平成27年からは幼保連携型認定こども園に「保育教諭」をおくことが義務づけられた。保育教諭は、保育士資格と幼稚園教諭免許状の両方の資格・免許をもつ者であり、子育て支援を含む多様なニーズに応える新たな保育専門職としての役割が期待される。

田園調布学園大学大学院

人間学研究科子ども人間学専攻

2025 年度入学試験

一般入試Ⅴ期

【筆記問題 90 分】

(注 意)

1. 開始の合図があるまで表紙をめくらないで下さい。
2. 試験時間は90分です。
3. 「解答用紙」は横書きで使用してください。
4. 「解答用紙」の左上に受験番号・氏名を記入してください。
5. 「解答用紙」の右上に通し番号を記入してください。
6. 「白紙」は下書き用に使用してください。
7. 「問題用紙」、「解答用紙」、「下書き用紙」など全て回収します。

2025年度 大学院入試 一般入試Ⅴ期 試験問題 (子ども人間学専攻)
試験時間 90分

「教育学」、「保育学」、「児童福祉学」の領域より出題する。以下の問題から2問を選択し、それぞれ解答しなさい。

① 教育学

カリキュラム編成における「系統主義」と「経験主義」の違いについて述べたのち、現代の政策について論じなさい。

② 保育学

日本の幼児教育において「倉橋惣三」(1882～1955)が果たした役割や、その思想・実践について述べなさい。

③ 児童福祉学

1989年に国際連合で採択された「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」(The Convention on the Rights of the Child)の概要と特徴、日本の取組について述べなさい。

2025 年度 大学院入試 一般入試V期 (子ども人間学専攻)

出題の意図

子ども人間学の研究を行うために必要な基礎的知識、思考力、文章表現力を評価する。

模範解答

「教育学」、「保育学」、「児童福祉学」の領域より出題する。以下の問題から2問を選択し、それぞれ解答しなさい。

① 教育学

カリキュラム編成における「系統主義」と「経験主義」の違いについて述べたのち、現代の政策について論じなさい。

カリキュラム編成における「系統主義」とは、科学的知識をはじめとする文化遺産の系統的な教授を重視する教科カリキュラム志向をいう。一方、経験主義とは、子どもの興味・関心から出発しその再構成を重視する経験カリキュラム志向をいう。前者は学問中心カリキュラム、後者は子ども中心カリキュラムともいわれる。

日本では明治初期の学校教育制度開始以降、系統主義的なカリキュラム編成が行われてきたが、明治末から昭和初期には、子どもの自発性や個性の尊重を掲げる「大正自由教育運動」の実践も活発に行われた。

第二次大戦後は、デューイの考え方に基づく経験主義の新教育が展開され、さまざまな生活経験カリキュラムが作成された。日本の初等・中等教育段階のナショナル・カリキュラムである「学習指導要領」の改訂は、系統主義と経験主義の振り子として捉えられてきた。1958年改訂では、子どもの経験よりも知識・技術の系統性が重視された。1977年改訂では、能率と高度化よりも「人間化」を求める「ゆとり志向」のカリキュラムが求められた。

「新学力観」に基づく1989年改訂を経て、「生きる力」を志向する1998年改訂以降は「総合的な学習の時間」が制度化された。2008年改訂・2017年改訂以降は、OECDの国際学力調査(PISA)、キー・コンピテンシー論の動向が、日本のカリキュラム編成の議論に重要な影響を与えるようになっている。

② 保育学

日本の幼児教育において「倉橋惣三」(1882～1955)が果たした役割や、その思想・実践について述べなさい。

倉橋惣三は、日本の幼児教育に関して、大正期から昭和戦前・戦後まで理論と実践においてリードし、現在につながる理論的基盤を築いた教育・研究者である。

彼は東京女子高等師範学校附属幼稚園の主事を務め、保育実践研究を通じて「誘導保育」理論を提唱した。「誘導保育」の理念は、「生活」(さながらの生活)を基盤とした保育実践

に基づいて考えられているものであり、具体的な保育案立案に際し、保育者の生活性を含めたりアリティと創造性を追求することが求められた。子ども一人ひとりの生活を重視し、子どもの自発的生活の展開を基本に置いている点に特徴がある。これは、現在の幼稚園教育要領や保育所保育指針にも通じる考え方として影響を残している。

著作としては『幼稚園真諦』『育ての心』『子供讃歌』などがあり、保育の本質を実践と教育学から探究しつつ、保育者の姿勢や子どもとの関わり方を具体的に示した。

倉橋の思想は海外の教育理論からも影響を受けている。フレーベルの遊びと教育理念、デュロイの経験主義的教育思想などが倉橋の理論形成に大きく寄与した。彼はこれらを単に日本の幼児教育に導入したのではなく、日本の文化や子どもの生活実態に即した独自の「誘導保育」理論へと昇華させた。

今日、倉橋の思想は、子どもの主体性を尊重する視点や協同的な学び、保育者の専門性を重視する姿勢、家庭支援の視点など現代の保育実践において再考すべき重要な観点を多く含んでいる。

③ 児童福祉学

1989年に国際連合で採択された「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」（The Convention on the Rights of the Child）の概要と特徴、日本の取組について述べなさい。

「子どもの権利条約」は、18歳未満の子どもを「権利をもつ主体」と位置づけ、その人権を認め、成長の過程で特別な保護や配慮をされる権利を定める国際条約である。前文と54の条文で構成されるが、そのうち「一般原則」とされる4つの条文があり、「差別の禁止」「子どもの最善の利益」「生命、生存及び発達に対する権利」「子どもの意見の尊重」の4つの原則とよばれている。子どもを保護の対象とする権利観から、権利行使の能動的な主体と位置づけたところが重要な特徴である。

子どもの人権を保障する国際的取組としては、第一次世界大戦における子どもの犠牲を契機として、1929年に国際連盟が「児童に関するジュネーブ宣言」を採択している。第二次世界大戦後には、国際連合が1959年に「児童の権利に関する宣言」を採択したが、法的な強制力をもつ仕組を求めて、1989年の国際連合第44回総会で「子どもの権利条約」が全会一致で採択された。

日本は5年後の1994年に158番目の締約国として子どもの権利条約を批准し、その後、国内法の整備が進められてきた。2023年4月には「こども基本法」が制定されたが、その第3条は「子どもの権利条約」の4原則を踏まえた内容になっている。

地方公共団体においては、「子どもの権利条約」に基づいた総合的な条例として、2000年に「川崎市子どもの権利に関する条例」が制定された。子ども会議の開催、相談・救済措置、行動計画の策定・推進、権利委員会の設置と検証を定める。同条例を先駆的モデルとして、現在、80を超える自治体が子どもの権利に関する総合的な条例を制定している。

田園調布学園大学大学院

人間学研究科子ども人間学専攻

2024 年度入学試験

推薦入試 I 期

【小論文問題 90 分】

(注 意)

1. 開始の合図があるまで表紙をめくらないで下さい。
2. 試験時間は90分です。
3. 「解答用紙」は横書きで使用してください。
4. 「解答用紙」の右上に通し番号を記入してください。
5. 「白紙」は下書き用に使用してください。
6. 「問題用紙」、「解答用紙」、「下書き用紙」など全て回収します。

2024 年度 大学院入試 推薦入試 I 期 (子ども人間学専攻)
試験時間 90 分

以下の問題から一問選択し、1200 文字程度で論述しなさい。
答えは解答用紙に記入すること。

問題

1. 次の文章を読み、この内容を考慮に入れた上で「子どもにとっての遊びの意味」について論述しなさい。

(出典：岡本夏木『幼児期—子どもは世界をどうつかむか—』pp. 92-98, 岩波新書, 2005 年)

2. 次の文章を読み、この内容を考慮に入れた上で「教育と学習」について論述しなさい。

(出典：『よくわかる生涯学習 [改訂版]』pp. 18-19, ミネルヴァ書房, 2016 年)

著作権に抵触するため公開しない

出典：岡本夏木『幼児期—子どもは世界をどうつかむか—』

pp.92-98, 岩波新書, 2005年

問題 2.

著作権に抵触するため公開しない

2024 年度 大学院入試 推薦入試 I 期 (子ども人間学専攻)

出題の意図

子ども人間学の研究を行うために必要な基礎的知識、思考力、文章表現力を評価する。

模範解答

著作権に抵触するため評価基準のみ公開する

【評価基準】

- a. 設問の趣旨を適切に理解しているか
- b. 選択した課題文を理解・読解できているか
- c. 論理性、妥当性
- d. 日本語能力、全体的な構成
- e. アドミッションポリシーとの適合性